

文教厚生常任委員会報告

平成 29 年 8 月 29 日
委員長 吉住 長敏

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成 29 年 7 月 24 日に保健福祉部、さらに 7 月 28 日に教育部に対し関係部課係長等に出席を求め委員会を開催いたしました。

保健福祉部

隣保館 (39 分)

隣保館から、平成 29 年度地域交流促進事業、就労サポート講座事業、地域人権福祉教室事業、スタンドアローン（一人で立つ）支援事業の進捗状況の概要説明。

委員から、健康福祉まつりと隣保館まつりの別日開催検討の問いに、結果的に同日開催の方が参加者数が多い。シャトルバス廃止の影響の問いに、件数を数えてはいないが、まだその声はある。何らかの現状調査を取りまとめた。高田教育集会所の民舞の参加者の少なさの問いに、ニーズに合わせた啓発を行う。スタンドアローン参加者の少なさの問いに、コミュニティ単位の学習塾みたいな所に行っていることなどが要因の一つとして考えられる。就労支援パソコン講座の紹介連携の問いに、無料職業紹介所と毎月打ち合わせ。韓国文化講座以外の他国語の開催はの問いに、異文化交流の視点で今後検討。ひだまりパスポートの募集の状況の問いに、8 小学校各十数名で計 111 名の応募があり、低学高学年各 30 名定員で実施。

福祉課 (57 分)

福祉政策係から、避難行動要支援者避難支援対策の進捗、臨時福祉給付金（経済対策分）の給付事業、秋季戦没者追悼式、第 31 回健康福祉まつり開催、障害者福祉係から、障がい者就労等支援状況、保護係から、生活保護の現況、生活再生支援係から、生活困窮者自立相談支援事業に関して、その他として課長から、子どもの貧困対策事業の進捗及び民生委員制度創設 100 周年記念式典開催に関して概要報告。

委員から、臨時給付金の未申請者と周知漏れとの関係の問いに、残り約 12% は明確な意思で要らないというよりは周知が行き届かなかった面があったが、民生委員の見守り活動により、申請に至ったケースがあった。障がい者の就職受験者の数、企業へのフォローの問いに、その数は把握していない。通所事業所、障害者就業・生活支援センター「ちどり」で対応。新たな民生委員の相談対応研修の問いに、今後考えたい。障害者差別解消法の推進でまずはサンコスモ古賀等での障壁を除去の問いに、その視点で改めて歩いて確認したい。生活保護が廃止なった方の対応の問いに、廃止になる際はケースワーカーで丁寧な対応をするが廃止後は距離を置く状況。生活困窮者自立相談支援の対応内容の

問いに、高額医療費制度等の利用状況の確認、家計相談員による生活収支アドバイス、無料職業紹介所への同行支援を実施。市民周知の行き届きの問いに、税、料金を管轄する本庁部署とのつなぎ連携に努力したい。子どもの貧困対策実態調査の対象の問いに、子育て支援課が担当で現在調整会議で詰めている。避難行動要支援者避難支援の進捗の問いに、5月24日の自主防災組織全体会議で新旧台帳を差し替えと秋口の高齢者調査で対応。健康福祉まつりのシャトルバス運行内容の問いに、昨年の反省を踏まえ行き来がしやすいように表示改善等を検討中とのこと。

子育て支援課 (46分)

こども係から、保育所入所、病児・病後児保育事業の利用状況、子ども・子育て会議、家庭支援係から、つどいの広場活動状況、こども発達ルーム、家庭支援係の相談受付件数、子どもの実態調査について、課長から、ほづみ保育園の一部建て替えの正式申請による増額補正予算の計上の報告。

委員から、待機児童の現状の問いに、ゼロ。未入所児童は10名弱。病児保育運営費負担の内容の問いに、古賀、新宮の児童数の割合と残りは利用者数により院内含めた割合。子育て会議録のホームページアップが遅れた要因はの問いに、委員の確認調整で手間取った。親子あそびの教育委員会移管の理由の問いに、より参加しやすいように地域の児童センターによる講座が望ましい。発達ルームの利用者増の受け入れ体制の問いに、相談は予約制が基本で若干の待ちはあっても今のところ苦情はない。ミニつどいの広場の実績回数の減の問いに、スタッフ12名の体制が半減したことに伴い、新メンバーへ引継等を実施したことによるもの。4カ月乳幼児家庭訪問の現状の問いに、全戸訪問し継続的な支援が必要な場合は数回訪問している。子ども実態調査の対象の問いに、全小学6年生と全中学3年生、その保護者、16歳から17歳に無作為500名、別に支援者など全体の約15%と見込む。子ども発達業務で民間委託は検討しているかの問いに、療育デイサービスをやる民間施設が数箇所あり今後考えたい。

介護支援課 (59分)

介護予防係から、高齢者外出促進事業、介護予防サポーター事業、包括支援センター係「寄って館」から「寄って館」事業の状況、介護予防・日常生活支援総合事業の利用状況、介護保険係から、介護保険サービス事業の利用状況について概要説明。

委員から、サポーターを増やす取り組み内容の問いに、地域に展開していく人材育成に力を注いでいる。ポイント換金の取り扱いの問いに、介護予防サポーター活動は基本はボランティアなので、1回の活動が100円のイメージを解消するため、限度に満たなかったポイントは次年度に繰り越しはしない。安否確認緊急対応コール事業の進捗並びに人感センサーの設置の問いに、6月末、86件中34件が新機種に変更済み。うち人感センサー設置は16件。18件は希望されず未設置。18時間以上センサーが動かなく心配された人はいない。GPSを使っただけの認知症徘徊者を探す事業の問いに、実施していない。地域支援事業費が前年度より減少している理由の問いに、サービス単価を低く設定している関

係。利用者は昨年 4 月 448 名、今年同月 515 名で減っていない。総合事業の人材育成の問いに、今年度 10 月から 4 日間の日程でシルバー人材センターが研修を行う。「ゆい」の活動状況の問いに、社会福祉協議会と一体となったことで、窓口が一本化され、話が通りやすいメリットという評価が出ている。病院区の地域密着型施設の進捗の問いに、3 団体から申し込みがあり 8 月の介護保険運営協議会でプレゼン後、9 月に候補事業所を決定し、財務支局に上申する運び。介護保険基金の状況と使途の問いに、現在 4 億 9,900 万円で第 7 期介護保険事業計画策定等の運営協議会の協議などを踏まえ今後検討。

予防健診課 (51 分)

健診指導係から、特定健診・がん検診の受診状況、健康づくり係から、古賀市健康づくり 100 人ワークショップの実施状況、課長から、平成 29 年度保健・健康づくり事業概要について概要説明。

委員から、特定健診等の昨年度同時期との比較と今年度の取り組みの問いに、7 月時点で受診者はいずれも少し伸びている。けんしん割、ワンコインの充実に加え電話勧奨強化でさらに推進。けんしん割の導入の意図と効果の問いに、無関心層の受診動機付け、今年度に使える健診パスポートの交付効果に期待。100 人ワークショップ参加者の構成の問いに、健康づくり関連サポーター、ウォーキングボランティア、介護予防サポーターや一般申込の方、実人数 98 名が参加。健康チャレンジ 10 カ条の選び方、意義の問いに、市民と一緒に考え、議論を重ねながら健康寿命を伸ばす目標に向かって健康課題を 10 個に絞った。10 月には御披露目の機会を設けている。国民健康保険税に関する関わり等の見解の問いに、保険者努力支援制度に課として特定健診受診率向上などのメニューを通じ貢献。また総医療費 44 億円のうち 19 億円が予防可能な生活習慣病関連で、高血圧と糖尿病が多くを占めるのが古賀市の医療費の特徴。日々の積み重ねによる医療費削減が大きな仕事と捉えている。よくまとめられた保健・健康づくり事業概要資料の生かし方の問いに、データを正確に客観的に見る意味で内部的に作成したが、共働していくため見える化と共有により必要な場面で活用したい。

教育部

教育総務課 (39 分)

庶務係から、平成 28 年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告書の進捗について、施設管理係から、平成 29 年度学校設備の主たる工事の進捗状況について概要説明。その他として課長から、交流館とその周辺工事がまちづくり交付金のシナリオ賞を受賞し、その表彰式に出席した旨の報告。

委員から、小中学校のエアコン設置の状況と教室の気温調査実施の問いに、設置に向けて市長部局と調整中。平成 27 年度の調査結果では日により 30 度を超える教室もある。ウォータークーラーの設置の問いに、過去に O-157、食中毒の恐れで撤去された。現時点で即決は控えたい。学校の教育用コンピューターの入れ替え、持ち帰り可能か等の問いに、学校現場の意見を最優先。ICT 推進委員会で機器の中身の検討を重ねて最新機器を導入。図書室は貸出システ

ム、中学校では検索システムを考慮。教員、市教委間の情報共有を付加。セキュリティ対策も含めて個人認証USBキーを配布することで在宅でも事務が可能なシステムに切り替えていく考え。花見小学校の間仕切工事は1階東側のみかの問いに、年次計画により他にも続けたい。長寿命化方針の検討内容の問いに、これまでのおよそ50年で建て替えという考え方を、延命可能な建物は75年から80年間使用する考え方に移行する年次計画、整備計画の策定に向かう。中学校トイレの改修計画の問いに、洋式化含め環境改善の大きなテーマで計画的に実施。古賀北中学校は大規模改修を控え便座取り替えを実施。

学校教育課（1時間12分）

課長より、小中学校の不登校児童生徒数、学童保育所の入所状況、就学援助支給状況、古賀市中学校2年生職業体験学習「ドリームステージ」及び古賀市小学校5年生接遇マナー研修、ALTによる英会話教室、九州北部豪雨災害に係る古賀北中学校ボランティア支援についてそれぞれ概要説明。

委員から、学童保育所の4年生から6年生の入所状況の問いに、109名。全体が719名なので15%程度。総数では昨年度684名、今年度719名。花鶴学童の増築、入所の問いに、増築部分に40名程度、全体で151名が入所。就学援助の来年度の状況の問いに、現在糟屋地区で可能な限り国基準に合わせ金額、時期に差異が生じないように調整する流れになるかと思う。骨密度測定の推進の問いに、7月31日に小野小学校で実施。PTCAによる変化の問いに、特に大きな変化はないが地域を交えた協議会を充実させる方向。花鶴小学校3年生の35人以下学級の対応の問いに、学習支援アシスタント等が入っている。小学校の英語教育の対応の問いに、3、4年生、5、6年生で15時間増の準備中。市独自の夏休み英会話教室が持続している。子どもたちへの市制施行20周年の周知はこの問いに、校長会で検討。フッ化物洗口の問いに、青柳小学校のみ毎週水曜日中休みに実施。夏休みプール開放の問いに、PTCAと学童保育所に開放。学校の飲料水としての上水道の問いに、水道水は飲んではいけないという指導はしていない。熱中症対策の問いに、校長会や教頭会で具体的な資料を出しながら室内での隠れ脱水対策も含めて啓発し、水分、塩分補給のケアをしている。給食の弁当の日の設定の問いに、各校3回。それ以外の弁当持参は年度当初から計画的に行うよう指導。空調設置の状況の問いに、導入方法、費用面等検討中。6月期の不登校の増加要因の問いに、例年の傾向。あすなろ教室との関連の問いに、あすなろ教室が全てではなく、校内の適応指導教室や保健室等別室でも対応。教員の多忙さ対策の問いに、毎週1回を定時退校日、毎週月曜日を部休日に設定。会議運営の見直し、ICT化、教職員の週案に出退勤時刻の記録を貼るなど様々な対応で臨んでいる。古賀北中学校ボランティア支援の人数の問いに、生徒会役員6名、教職員7名、市学校教育課学事係3名、計16名。校内募金を杷木中学校に渡した。

学校給食センター（52分）

学校給食センターから、平成29年度の給食提供事業、食育推進事業、食器破損状況及び地元農産物使用状況について報告。

委員から、食器洗浄作業や種類の問いに、洗浄機サイズに合わせた軽量化等を業者に求めている。破損の要因の問いに、1年生などでは4月以降と6月が例年多い。現場では湿気の多いときに増えている傾向。給食運営委員会の際の試食会を設けてはの問いに、検討したい。給食回数に関する問いに、各学校、特に中学校ではカリキュラムに基づき設定。マイ弁当の日等は教育的一環で各学校で検討いただくもの。もし最終的に教育委員会で決定され給食回数が増えるのであれば増加回数掛ける299円の給食費を11カ月で振り分ける。センターでは年間約200日稼動しており、その内であれば可能。給食費の滞納で食材への影響はの問いに、徴収率は99.05%で、約250万円未納。食材高騰の際は献立面で対応するなど未納事由は念頭にない。古賀スイーツコーンのコーンスープ、鶏すきを給食に取り入れたことに対して、好評の声が届いている。今後もみかんやオムレツをつくる会社に古賀産農産物を取り入れてもらうよう発展させたい。地元産野菜の供給農家件数の問いに、水菜、小松菜、サツマイモで3、4件。給食センターの見学、小学4年生の2分の1成人式での見学の考え方の問いに、バス借り上げの問題もあるが中学生含め検討。生産者にも来ていただく方向。アレルギー対応の問いに、献立表に細かい成分を示し家庭に配布している。食品残渣の状況をこれから先、定時報告すべきの問いに、残渣は肥料にかえ各学校、農産物生産者に100%再利用しているがよく検討したい。

文化課（1時間5分）

文化財係から、船原古墳関係事業の進捗、文化振興係から、今年度事業報告と事業予定、以下同様に図書館係及び市史編さん準備係からの概要報告。

委員から、沖ノ島世界遺産登録の影響はの問いに、特段の問い合わせはない。船原古墳の小学生向け資料の作成の問いに、現在はつくっていない。副教材としての希望があれば検討する。船原古墳保存活用計画策定委員会の構成の問いに、2名は古賀市内、学識経験者4名の計6名で年3回開催予定。船原古墳の整備内容の問いに、まずは駐車場の整備と遺構の埋め戻しを行い、そばまで来て見れるようにする。谷山北地区遺跡群の範囲はの問いに、船原古墳含めてオレンジロードまでの水田をさす。夏休み子ども体験教室はの問いに、文化協会会員を中心に講座を開催予定。子どもの文化振興については、今後も文化芸術審議会などで考えていきたい。図書の紛失状況の問いに、今年度は20冊。ICタグゲートに手を挙げて通過されたケースがある。書き込み、切り取りの冊数の問いに、平成28年度はAV資料347を含め558冊。雑誌スポンサー制度の現状の問いに、現在7事業所9誌に協力いただいている。市史編さん10年計画のめどの問いに、平成30年度予算編成頃までに各年度毎の概算事業費を担当課案として取りまとめた。6月に可決された文化芸術基本法への対応の問いに、本市では既に条例、振興計画を策定。現実的に推進している自負はある。文化協会ともども連携、市民参画型により文化振興の担い手の発掘などさらに推進していきたい。

青少年育成課（32分）

課長から、青少年育成事業、少年センター事業、子ども体験広場事業、児童

館・千鳥児童センター事業並びにその他として青少年総合センター機能の移転、古賀市夏休み子ども議場見学会、平成 29 年度地域つながりあいさつ運動で市内小学校一斉あいさつ運動の取り組みについて概要説明。

委員から、少年センター相談件数の伸びの要因の問いに、不登校、引きこもりの件数が増加。青少年総合センター移転後の活用の問いに、現在は決まっていない。児童センターのその他利用の問いに、市外者の来館でバンド、チアリーダーの練習とのこと。体験広場の移転後の開催場所はの問いに、リーパスプラザこが、3 児童館を利用する考え。通学合宿実施内容の問いに、今年度は青柳、小野など 3 小学校で開催。寺子屋開催計画の問いに、花鶴、千鳥校区コミュニティで実施。庄寺子屋は見送り。社会教育分野で補助金を受けていない団体はの問いに、ボランティア団体ワペルがある。

生涯学習推進課（1 時間 9 分）

社会教育振興係から、平成 29 年度社会教育振興事業計画、リーパスプラザこが交流館の利用、スポーツ振興係から、クロスパルこが、こがっ子元気アップチャレンジ、子ども体力向上研究の学社連携事業「目指せ!子がスター」、地域ウォーキング事業に関して、公民館係から、平成 29 年度コスモス市民講座（後期）について概要報告。

委員から、交流館のキッズコーナーの利用者の現状の問いに、利用者数は定時にカウントしているが、新たなスペース確保はまだ未定。テニスコート整備の協議の問いに、協会と煮詰めている段階。クロスパルこが指定管理の更新時の方向性の問いに、現在情報等を収集している状況。交流館等へのまちの保健室の設置の問いに、持ち帰りたい。高田と花見のスポーツジム計画による影響の問いに、把握はしているが、様子を見守りたい。クロスパルこが利用者増対策の問いに、周知に努めているが女性、法人会員が減っている。民間施設を含めた市民の利用動向など総合的に見ることでできる情報提供の考慮の問いに、努力したい。フェイスブック等での効果的な情報発信を検討。リーパスプラザこがの駐車場対策の問いに、市民グラウンドは子どもから大人の憩いの場としていきたい。市役所と J R 古賀駅からの距離は変わらない等の利便性の P R に対応。催事が重なる場合は案内役を立てるなど、予約の際に丁寧に説明。まつり古賀の開催場所の問いに、市役所と聞いている。リーパスプラザこがの市民アンケート調査の目的の問いに、平成 28 年度掲げた 30%指標に絡んで調査。フリースペースの利用時間制限の問いに、譲り合って卓上の 1 時間以上利用はご遠慮願っている。Wi-Fi 使用環境の問いに、15 分、4 回という市役所環境と一緒。コスモス市民講座の受講料はワンコインにしてはの問いに、生涯学習の裾野を広げる意味で高額にならないよう線引きを研究。地域公民館の活用の問いに、コスモス市民講座は地域公民館を活用し、講座を開催していきたい。

以上、議会閉会中の調査事項の付託案件について調査の概要報告を終わります。